

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|------------------------|---|------------|
| ○事業所名 | kids salon ぼの [児童発達支援] | | |
| ○保護者評価実施期間 | R8年1月15日 | | ～ R8年1月29日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 4 | (回答者数) 4 |
| ○従業者評価実施期間 | R8年1月19日 | | ～ R8年1月26日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 6 | (回答者数) 6 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | R8年1月31日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 専門的な知識と技術に基づいて提供している支援 (ABA療育) | ABA(応用行動分析学)の国際資格である法人スーパーバイザーを中心に、ABAに基づく発達支援、特別支援教育を実施しています。偶発的教授法(NET)と離散施行型指導法(DTT)を組み合わせ、子どもひとりひとりにあわせて支援プログラムを実施しています。 | ABAの国際資格の取得を中心としたさらなる専門知識、専門技術の向上、またABAの国際資格の取得を目指す者への取得支援を行っていくことで、事業所全体の療育の質をさらに高めていきたいと考えている。 |
| 2 | 柔軟な保護者支援 | 公的サービスの中で質の高いABA療育を提供するのと合わせて福祉事業所として求められるレスパイト機能の充実も行っています。保護者の就労状況や家庭背景に応じて延長支援や家庭訪問を行うなど、柔軟に対応しています。 | 延長支援や家庭訪問などでの支援で実施した内容について、職員同士で情報共有していくことが非常に重要であるため、今後も意識的に取り組んでいきたい。 |
| 3 | 家庭プログラムの実施 | 家庭で発生している問題行動を改善するために、利用者を中心とした家族全体に対する支援を実施しています。 | 家族全体に対する支援は事業所内で支援をするよりも専門的で高度な技術と知識が必要となることがある。より高度なABAの知識と技術を身につけたスタッフの育成が非常に重要である。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 保護者向けに子どもへの関わり方について専門的な方法を教えてもらえる研修を求める声があがっているが、実現できていない点 | 保護者の集まりやすい時間帯と療育提供時間とのバランスを鑑みて、実施できずにいる。 | 保護者同士がつながり、考えを共有したり、専門的な知識を学べる場を提供できるように時期や場所、研修内容をアンケート等を通して検討していきたい。 |
| 2 | 利用希望者が多くいる中で空き枠が不足しているため、待ってもらっている家庭が多く発生している。 | 専門的な支援を求めるニーズに対して、事業所の利用枠には制限があるため、難しい状況である。 | 遠方から利用している家庭に関しては、問題行動が改善した際に地域の事業所への移行支援を実施している。 |
| 3 | | | |